

2019年9月9日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (85)

「九州から日本を動かす」という強い思いを持って、九州経済連合会の会長として4期目を担当しています。危機感無きジリ貧。1990年には世界で13%を占めていた日本のGDPが、今や6%以下という状況です。しかもそれに対する改善のスピード感、使命感、危機感はあまり感じられません。

この状況からの脱却を実現すること、少なくとも経済の盛り上がりを作ることに努力しています。一億総評論家。出来ない理由を賢そうに説明するばかりでは、日本の次世代は相当ひどい事になってしまいます。

私は自分で生涯目標、志を持って生きることの大切さを知り、努力していきます。大事なことは「地域、国家に役立つ」という生き方だと思います。現在、九経連の会長を含めいくつかの役職に就いていますが、家業は息子たちが頑張ってくれています。この屋台骨がしっかりしていることがすべての前提です。これからも次世代を応援し続けます。

私のライフワークの大事な目標に「H2E」という活動があります。水の元素記号であるH₂Oからこの言葉を使っていますが、二つの「H」と一つの「E」が重要な要素となります。一つ目のHは病院経営、「ホスピタル」のHです。飯塚病院という「(H)ホスピタル」を核として、飯塚市で「(H)ヘルスケアネットワーク」を作り上げていく。この大きな目標が二つのHです。最後のEは教育事業、「(E)エデュケーション」です。

一つ目のH、飯塚病院は創立100年を迎えましたが、そのうち40年間くらい経営に携わっています。昔は「オンボロ病院の西の横綱」と言われていたようですが、今はかなり評価が上がりました。公立病院、公的病院が毎年7,000億円くらい国からの補助金を必要としている。国家財政危機にもかかわらず、その資金需要は減りません。飯塚病院も補助金を貰っていますが、金額は少なく、長期間黒字経営を維持しています。従業員満足度向上が、患者や患者家族の満足度向上につながり、その流れが病院の健全経営に繋がっていきます。

そして二つ目のH、ヘルスケアネットワークをしっかりさせていくこと。各救急の際には診てもらえる病院が近くにある。各病院や施設、そして開業医の先生方としっかりとした連携を取り、患者さんの退院後や自宅でのケアを確実に分担していくというネットワークが出来れば、「住み続けられる街・飯塚」が出来上がります。医療や福祉施設がしっかりとしていれば、将来の生活を考えて転居する必要はありません。高齢社会の先進地方都市として、人口が減らない、「住み続けられる街・飯塚市」を目指します。

教育が非常に重要です。子供たちの教育レベル向上は大きな課題ですし、やりがいのある仕事です。幸いなことに飯塚市の片峯市長は、教育長や校長を経験されており、教育にロマンと強い思いを持たれています。アメリカで始まった Teach for Japan という教育活動が福岡市や飯塚市、田川市に優秀なフェローを都会から送ってくれ、二年間の滞在で多くの実績、成果を出してくれています。英語教育の面でもほかの地方都市では味わえないチャンスがあります。

この H2E 活動に力を入れ続け、動かしていくことで地域、国家に役立っていると思っています。この行動や思いをこれからしばらく書かせてもらいます。

麻生 泰